

知ればもっと好きになる。

## ひるがの高原の湿原植物たち

ひるがの高原を代表する花と言え、やはりミズバショウだと思ふ。しかし、ひるがの高原で比較的簡単に見ることができる花、それも湿原に生える花に限っても、30種類以上ある。

私が、初めてひるがの高原に来て既に14年ほど経つ。当時、湿原の植物には詳しくなかったの、初めて見る湿原植物のほとんどの名前がわからなかった。その中で、最初に目に付いたというか驚いたのが、コバイケイソウだった。ひるがの高原では、コバイケイソウは6月中旬から下旬にかけて咲くのだが、花が多く咲く年とそうでない年とがある。特に1997年は全国的に10年に一度あるかないかの咲き年だったようで、ひるがの高原に多いコバイケイソウだけでなく、板橋地区に多いバイケイソウもたくさん咲いていた。

でも、驚いた理由は花がたくさん咲いたということではなかった。それは、それまで白山など比較的高い山でしか見たことが無かったコバイケイソウが、標高1000m以下のひるがの高原にあるということだった。後にいくつかの図鑑で調べてみると、コバイケイソウは低山から亜高山にかけての湿地に分布するということなので、本来は標高の低い場所にも生えているものなのかもしれないが、人家のすぐ近くでこれほどたくさん見られる場所はあまりないのではないかと思う。その後も、ワタスゲ、キンコウカなど、高山植物図鑑に載っているような植物が国道からすぐそばの湿原にあることが分かり、大変感動した覚えがある。

冒頭に簡単に見ることができることと書いたが、これらの花はひるがの高原以外ではそれほど簡単には見ることができない。それは、植物だけでなく、「ひるがの一と第一号」で紹介したオオジギなどの野鳥などもそうである。そういう貴重な生き物たちが、人間とすぐ隣り合っていて生活していることが、ひるがの高原の最大の特徴だと思う。

(文：瀬川和也 写真：森島充好、瀬川和也)

**PROFILE:** 瀬川和也氏 出身地の石川県から、ひるがのに移り住んでちょうど10年。現在はひるがの別荘管理センターの社長として働く傍ら、湿原の調査や湿原植物の保護活動に熱心に取り組んでいらっしゃいます。ひるがのの歴史が始まって以来、「湿原」という観点から一貫して調査された記録はなく、それだけに、瀬川さんの手掛けている地道な調査の積み重ねは、後のひるがの湿原にとって、貴重な資料になることとされます。

そういう貴重な生き物たちが、人間と隣り合っていて生活している…



コバイケイソウ

ひるがの高原での花期：6月上旬～6月下旬。  
本州中部から北海道の低山から亜高山にかけての湿原、湿地に群生する。白山の弥陀ヶ原（標高約2300m）には大群落がある。  
(撮影：2008年6月23日 ひるがの湿原植物園)



キンコウカ

ひるがの高原での花期：6月下旬～7月下旬。  
本州中部から北海道の低山から高山にかけての湿原、湿地に自生する。  
(撮影：2006年7月9日 ひるがの湿原植物園)



ワタスゲ

本州中部から北海道の低山から高山にかけての湿原に自生する。  
(撮影：2004年6月2日 おやめ沢湿原)

